

1 法人本部

介護保険事業計画の第7期(平成30-32年度)は基本指針として自立支援重度化防止に向けた機能強化の推進。地域共生社会の推進、医療計画の地域医療連携推進との整合性の確保。虐待防止対策、「介護離職ゼロ」にむけた介護をしながら仕事を続けることができるサービス基盤の整備が掲げられている。障害福祉計画第5期(平成30-32年度)では障害者の自己決定の尊重を支援し、日常生活および社会生活を総合的に支援することを目標と掲げられている。気仙沼市では高齢化率39.9%となる2025年を見据えての環境作りが求められ、そのため健康寿命を延ばす健康作りや、介護予防の推進、地域が支える高齢者福祉、障害者福祉施策の推進に力点が置かれ、医療、福祉、介護等の連携の強化がうたわれ、法人の果たす役割もますます重要となる。

今後介護保険給付適正化を進めるため「見える化」への取り組みが検討され、社会福祉法人としての運営を行っていくなかでの業務の見直し、様々な責務、運営の透明性、効率化、財務の強化、人材育成、地域における公益的取り組み等社会福祉の構造的改革を推し進めることが望まれる。経営組織のガバナンスの強化とともに大きな変革期を迎え、4カ所の拠点はその役割を果たし、それぞれが地域の中核として社会福祉法人責務とともに構築しその使命を果たしていかなければならないと考える。

平成30年度の、重点課題

1. 法人全体とし事業運営の透明性の確保、各事業の取り組みや事業の精査と統合、財政基盤の確保と経営力の向上を目指す。
2. より充実したサービスを提供するため研鑽を積むと共に、人材育成のための研修、新たな取り組みに挑戦する。人材の育成、定着に全体で取り組むと共に、業務の責任に向き合う中堅職員の育成にも取り組む。各自がプロとしての自覚を発揮し情勢の変化に対応できる職員を育成する。
3. 地域が支える持続可能な社会作りへの貢献をするため、法人として公益的な取り組みを充実させ、法人独自の事業継続と展開を積極的に構築していく。
(子育て支援事業キンダークラブの充実、キングスファームの取り組みと研究。福祉カフェ「八日町ランチ」事業など)
4. 医療・福祉のさらなる連携への構築に貢献する。
5. 継続課題への取り組みとしてキングスビレッジ・障害者グループホーム「仲町ランチ」の営業開始に向けた努力を行う。

社会福祉法人キングス・ガーデン宮城は高齢者ケアだけでなく、障害者を含めての地域包括ケアシステムの構築を基本にし、将来にわたる潜在的資源の洗い出しと、新たな発想、取り組みを行うとともに既存のサービスの向上、法人理念を広く伝え、情報公表を行い地域に信頼される法人となり、行政、医療、地域の連携に磨きをかけ法人の掲げている目標、切れ目のないトータル・ケアシステムを構築する努力を続けていく。

2 ケアハウス 南三陸キングス・ガーデン

基本方針

「夕暮れ時に光を」の精神で、人生の最後を安心して楽しく穏やかな生活が出来る様に、画一的なサービスではなく、個人が自立した生活を送れる様にする。また、入居者の健康に留意し、楽しく安心した生活ができるよう支援していく。

重点目標

1. 入居者のご家族、地域の結びつきを大切にした関係を作ります。
2. 個々の状態に沿った健康面や精神面の相談に努めます。
3. 楽しく、安心できる共同生活を支援していきます。
4. 安定した入居者の確保に努めます。

具体的な実施事業

1. 入居者やご家族との相談、連絡を密に信頼関係を作り、また、地域との結びつきを大切にします。
 - (1) 積極的に会話する時間を作り、本人の意思を尊重します。
 - (2) 保証人、ご家族へ状況報告や相談を行い、連携強化を図ります。
 - (3) ボランティアや小中学生の見学や学習を受け入れ、社会参加や人との繋がりを作ります。
 - (4) 資質向上のため研修会へ参加し、自己研鑽に努めます。
 - (5) 事業所との連携を密にし、個々の状態に応じた在宅サービス利用の支援を行います。
2. 介護予防や体調管理の充実
 - (1) 健康クラブを実施し、体を動かす機会を作り介護予防、健康維持に努めます。
 - (2) 定期的に健康チェックを実施し、体調の変化に注意し、体調管理に努めます。
 - (3) 食事の時の状態観察により、体調の変化に注意します。
 - (4) お一人お一人と向き合い悩みや要望、日常生活の訴えを傾聴する時間を大切にします。
 - (5) 他事業所との連携を密にし、個々の状態に合った在宅サービス利用と支援を行います。
3. 楽しみが持てる行事、活動を行い、安心できる生活を提供します。
 - (1) 外出バスを行い、買い物を楽しむ。また、ドライブを計画し外出の機会を作ります。
 - (2) 四季の花や緑あふれる環境作りに努めます。
 - (3) 一人一人が今、出来ている事、不安に感じていることを把握し、その方に合った支援を行います。
4. 安定した入居者の確保

平成29年度は約99パーセントの居室稼働率だったので、介護支援事業所等との連絡を密にして、空室情報を発信し、入居希望者の情報を収集し、入居につなげていく。

3 キングス・ガーデン デイサービスセンター

基本計画

利用者の在宅生活が張りのある毎日となるように、一年の季節感を味わい、人とのふれあいで社会性、生活リズムを整えて満足して頂けるように支援して行く。また、ご家族の身体的、精神的負担を軽減し日常生活上のお世話及び必要な援助を行う。地域ケアの拠点を念頭に常に利用者の立場にあった質の高いサービスを提供して行く。

重点目標

1. 個別ケアの充実

- (1) 担当者会議の情報を基に、ご家族、利用者のニーズ等を可能な限り尊重し、自立に向けた通所介護計画書を作成し、利用者が在宅での生活が継続出来るような計画書を作成する。また、状態にあわせて変更、継続を行う。
- (2) アセスメントを見直し、利用者の性格や嗜好がわかりやすい内容とし全ての職員が把握する。
- (3) 日々の記録を充実し情報の共有を強化する。
- (4) 食事は利用者の内容形態を把握し喜びを感じるような食事を提供する。
- (5) 認知症高齢者に対して区別なくサービスが提供出来る様に日々変化する症状に対して対応して行く

2. 安定的な経営の確保（稼働率の向上・体験利用者の受け入れ）

- (1) 今年度も各居宅事業所と情報交換をしながら、新規利用者の受け入れ体制を充実する。
- (2) 体験利用がしやすい環境作りを行い新規利用者の獲得、稼働率の向上を目指す。

3. 事故防止対策（記録・報告の充実）

事故、ヒヤリハット、苦情等が発生した際には内容を具体的に記録し、その記録をもとに早期に会議を開催する。毎月会議においては問題点、課題点を述べ意見交換を行い事故防止及び状況改善に努める。

4. 健康管理対策

利用者の健康状態を観察し、健康管理指導等を行い異常時の早期発見、対応に努める。緊急時にご家族、主治医に迅速な対応に努める。感染予防の適切な対応、対策を季節ごとに実施する。

5. 職員の資質の向上

定期的な内部研修(講師を招いて)を実施。また、外部研修においても積極的に参加し多様な技術ノウハウを養い、得た情報は職員全員に周知し共有するように努める。

レクリエーションはマンネリ化を脱却しバリエーションの増加を検討する。

4 キングス・ガーデン ケアプランセンター

基本方針

高齢者人口が増加していく中、在宅での生活がより負担少なく充実したものである様に適切な支援を行う。また本年度は介護保険改定の年にあたり、制度の理解を深め対応して行く。

在宅での生活が継続できるよう、地域、医療との連携を強化し地域の包括的ケアの構築を目指したい。地域の中での存在感を増していけるよう努力する。

利用者獲得においても予防給付の受け入れを前年の2倍を受け入れているが、介護給付が伸びていないことから新規利用者獲得にも引き続き力を入れていく。

重点目標

1. 新規利用者の獲得

(1) 地域への浸透

在宅介護支援センターや今までの支援を通じ、地域との連携を図っていたが、より地域へ積極的な踏み込みを進めて行きたい。地区の行事や会合等での出張相談会等を企画し地域へのより深い浸透を図りたい。

(2) 予防給付への積極的な取り組み

昨年度から予防給付を積極的に受け入れ利用者も倍になっている。市全体の傾向でも介護給付が伸びず予防給付が増えている現状で、引き続き予防給付の受け入れを進めて行きたい。

2. 制度改正への対応

(1) 勉強会等の開催で制度の理解を深め適切な対応が出来るようにする。

(2) 地域、医療、他事業所との連携がより重要になり、積極的なアプローチを行う。

3. 業務の効率化

(1) 業務書式の見直し

書式等を見直し不要や重複を少なくすると共にパソコン等の活用を進める。

(2) 資格取得の推進

制度改正でも主任介護支援専門員が重要度を増してきており、資格取得を進める。

(3) 勉強会、研修の活用

より効果的な勉強会、研修を企画、受講し個々の資質向上に努める。

5 キングス・ガーデン 在宅介護支援センター キングス・タウン 在宅介護支援センター

在宅介護支援センターは気仙沼市よりの委託で高齢者の訪問調査を行い、生活状況を把握するとともに相談を受ける中で、隠れた問題やニーズを発見し、地域包括支援センターと協力・連携のもとで支援を行ってきた。平成30年度も気仙沼市は高齢者実態把握訪問調査相談業務を委託する方向であり、継続して委託を受け高齢者の支援を行っていきたい。2025年問題に向け地域包括ケアを推し進めていく中で、身近な相談の窓口として地域に根ざした支援を展開して行きたい。

また、災害復興で再編された地域で孤独や不安に苛まれている高齢者に気付き適切な支援を受け元気で生き活きとした暮らしが送れるよう係わっていく。

重点目標

1. 身近な相談窓口として

在宅介護支援センターは各種手続きの代行等が行える。各種サービスの第一歩としての窓口機能を特に意識し、各種相談にタイムリー且つスムーズに対応して行く。

2. 住み慣れた地域の中で

地域包括ケアが推進されている中で、市の委託事業として公正中立の立場から各種サービスや制度との橋渡しを適切に行い、地域の中で安心して暮らせるようにする。

6 特別養護老人ホーム キングス・タウン (ショートステイ併設)

目指すべき方向性

「尊厳の保障と生活の質の向上」

安心で家庭的なぬくもりを感じる、お互いを尊重し、感謝し、人と人との絆を太くする。自ら持っている経験と知識や想いを活かし、健康で生きがいを感じられる日常。そういった入居者の生活環境をプロデュースしていきます。

職員の明るい挨拶や優しさ、温かさは勿論の事、介護職プロとしての職業観、倫理観、技術、人間性を磨き、さらにキングス・タウンならではのユニークさを持った活動を実施し、関わる人々全ての暮らしを豊かにする。入居者、ご家族一人ひとりに、心から信頼され、親しまれる住処を目指して行きます。

重点目標

1. 介護に対しての基本姿勢(介護サービスの資質向上)

介護サービス業に携わる職員として、道義的責任を果たせるよう精神力、技術等の向上が必要です。施設職員として自分の姿勢や判断に自信を持ち、様々なリスクを正しく受け入れ、適切に対処できるよう常に心がけ、創意工夫を繰り返し続けます。清潔な生活環境により質の高いサービスを構築します。

明るい挨拶や優しい笑顔などの基本態度が介護サービスの重要な柱です。「相手を大切に思う気持ち」からの挨拶、声掛け、目をみての会話、丁寧な介助の提供を日々の場面で実際に適切に行われよう努め、それにより、明るく安心できる終の棲家としての役割を果たします。

2. ユニットケアの自主性尊重と活性化の推進

ユニットケアは、「配属された職員が入居者の介護・看護・ニーズ・苦情に迅速かつ柔軟に判断・対応ができるよう、規模を縮小した介護提供態勢」により「ごく普通の生活」を実現することである。それぞれのユニットの自主性を尊重し、柔軟かつ迅速な対応で、質の高い生活を実現します。

3. ターミナルケアの取り組み姿勢

新規入居者が現実的には要介護4以上の現状である。施設での看取りは当然のものとなっている。職員の死生観や倫理観の質の向上や必要と思われる中、研修等を充実させ、入居者・ご家族の意向に沿った看取りの実現に向けて、主体的にご家族が判断できるよう支援を心掛けると同時に、プロとして正しく関わられ、心構えられるよう体制基盤を構築します。

4. 口腔ケア、リハビリの促進

日常生活活動の上で機能維持、回復訓練を行えるよう多彩なプログラム用意し他職種の協力体制で実施する。健康な生活の維持に対して、口腔ケアは特に重要と捉え、知識、技術の向上と共に関係機関との連携を基に実施する。「口から食べる」ことへの取り組みも、多彩な視点、視野から検討を繰り返し重ね、基盤を構築します。

各ユニット、担当部署

■ 特養・萩乃家（3F）

～ 和顔愛語・明るい笑顔、優しい言葉、元気な挨拶 ～

「和顔愛語」を合言葉に人間的魅力のある空間を作り、入居者が生きている事が実感でき、笑顔を引き出せるように支援を行っていく。

1. 入居者の要望、細かい気づきにすぐ行動し、入居者が家庭にいるような気分で過ごしていただけるユニット。職員間でもケアの統一ができ、一人一人が介護員としての責任自覚を常に持ち行動できるユニットを目指す。
2. 入居者にとって安全で快適に生活出来るユニットを目指し、個々のケア能力の向上は勿論の事、入居者の身体面のみならず、情緒面においても常に「気づき」を大事にし「心」のケアを目標にしていく。
3. 清潔感のある、明るい話しやすい雰囲気ですっきり落ち着いたようなユニット。生活する中で楽しみを見つけられる笑顔の多いユニットを作っていく。
4. 入居者が心から安心、快適に過ごせるユニット。入居者が困っている時は話を聞き安心して過ごせる日常を提供していく。また、これまでにやった「お誕生日会」や「おやつ作り」等イベントを再度計画し、日常生活を少しでも楽しんでもらえるように支援していく。
5. 入居者が本当に心から「ここで良かった」と思ってもらえるようなユニットケアを目指し職員一同一丸となり真摯に向き合っていく。

■ 特養・菊水庵（3F）

～ 入居者（ご家族）の「願い」や「希望」・「思い」を大切にするケア ～

職員は入居者の立場に立って「当たり前」の生活を送ることが出来る。「一人ひとりの生活を大切にする」、「心と心のつながりを大切にする」事を目的とし「家族的・家庭的な雰囲気」、「馴染みの顔」、「小集団の自分の居場所」そして「入居者のそばにいて、入居者の声を聴き、入居者の生活を支えていく」ことにより、入居者（ご家族）の「願い」や「希望」・「思い」を少しでも叶えていくことを目指します。入居者の長期目標・短期目標を決め、それに向かってチームとして統一したケアを行う。

- 入居者の長期目標・短期目標を決め、それに向かってチームとして統一したケアを行う。
- 入居者のADL・QOLの維持・向上の為「見守る勇気と余裕」を持つ。
- 入居者とのコミュニケーションを更に増やすための工夫をする。
- 行事・レクリエーションの充実
- 生活環境の整備と拡充
- 職員の技術向上のための、積極的な研修・勉強会への参加

■ 特養・藤波亭（3F）

～プロ介護従事者育成を目指して～

要旨：充実したサービス提供を目標に他ユニットとの連携のしやすさ、人材育成に必要な業務内容を見直し、業務のスリム化、マニュアル化に続く各職員のスキルアップを行いやすい環境を作成。そこから発展させる。

上記要旨にて今年度の目標を掲げるにあたり、まず人材育成に必要な業務の見直しから検討している。現行の職員は各個のスキルレベルに多くの差異がある事は否めず、また人員の短期的な入れ替わりも多く、長期的な計画のなか手厚い育成は難しい状況である。そのため、業務内容の理解のしやすさや、習得のしやすさなどが求められるものと思われる。その上で介護サービスの充実をせねばならず、より基本的概念である自己の尊重・生活の継続・自立支援の元、現行行なっている業務がそれぞれに沿い、要不要な面で洗い出しを行い、最終的には経験年数の少ない介護職員でも作成された業務マニュアルやフェイスシートを元に日常の業務を行なえるようにする。各々が一通りの業務を行える環境を作成した後に、まずは基礎的な介助スキルとなる動作（例・排泄介助や更衣介助等）の成熟を目指していき、業務間の時間的猶予や対応力の高さへと繋げる。基礎スキルの上昇により、例えば朝の起床の時間をゆっくりしていただき、入居者とのコミュニケーションの時間を多く取り、より寄り添い、個々の意思の反映されたサービスの提供が可能となっていく。また、余暇活動の活性化にもなり、季節行事の充実や外出支援などもしやすくなる。

■ 特養・葵亭（4F）

～安全に生活でき毎日笑いがあるユニット～

「入居者が安心して暮らせる」、「居心地がいい」をモットーに…

1. すべての入居者に、安心・幸福・快適と感じていただけるケアを！
2. すべての入居者の、自尊心が高められるような支援を！
3. 自分自身が入所したいと思えるようなユニット作りを！
4. 職員間のチームワークを大切にすること！
5. 目くばり・気くばり・心くばりを大切にすること！
6. 常に笑顔で接すること！
7. 老人介護の原点を忘れない！
8. 専門的な知識と技術を持つこと！

等を常に考え、ユニット会議等でしっかりと議論し、ユニット職員皆が同じ目標に向かってケアを行っていけるようなユニットにする。また、職員自身も環境の一部であることを認識し、入居者の対しての言動・声の大きさ・トーン・走らない・慌てないなどを常に心がけ、自分自身や家族が入居したいと思えるユニットづくりを目指します。

■ 特養・百合庵（４F）

～ いつも笑いのたえない楽しいユニットづくり ～

入居者の暮らしが安心・安全居心地の良い環境になるようにケアに努める。また入居者の「日々の楽しみ」を把握し共に実践して行く。日頃から利用者とのコミュニケーションを多く持ち何でも気軽に話せるような信頼関係を築く。

具体的な取り組み

1. ユニット行事として、誕生会・お菓子作り・外出支援など季節に合わせた季節を感じて頂けるようなイベントを開催する。また他部署などの交流も行えるようにして行く。（楽しい思い出を記念写真にし、アルバムにする。）
2. リハビリとして日常動作や歩行訓練・計算問題・漢字練習・間違い探し・ラジオ体操等利用者のADLの向上維持に努める。（入居者の趣味・嗜好等積極的に取り入れる）
3. ケアマネ・看護師・PT・介護職員間でのカンファレンスを定期的に行い情報の共有化に努める。（多業種との連携・協働を推進する。）
4. ユニット会議での情報共有化し個別ケア向上の為24時間シートの継続と見直しを行い統一したケアを行えるようにする。（24時間シートに沿ったケア）
5. 利用者が過ごしやすい環境を整備し安全に過ごせるように配慮する。（快適空間整備・整理整頓・動線の創意など）
6. 意思疎通の困難な利用者に援助する時には御家族様の意向をお聞きしその方に何が必要かを状態のみながらケアに努める。

■ ショートステイ（梅庵・桜亭）（２F）

- ◇ その人らしさに応じた介護を目指します
- ◇ 利用者の暮らしやすい環境を作ります
- ◇ 笑顔で明るく素直に対応します。

1. 利用者本位の生活を目指し、それぞれの利用者に応じた援助を心掛けることで、安心安楽できる暮らしやすい環境づくりに努めます。また、気持ち良く過ごせるよう笑顔で明るく素直に対応します。
2. 利用者の身体状況や持病などをより確実に理解できるよう関係機関及び職員間との連携に努めるとともに、毎日の関わりの中から身体状況の把握に努めるようにすることで早期発見・早期対応に努めます
3. 利用者の好物や持病などの把握に努め、安心・安全な食事提供します。また食事は利用者にとって最大の楽しみの一つであることから、季節にあったメニューや行事食の提供にて、楽しく笑顔で食していただけるよう配慮します。
4. 「言いたいことを、言いたい時に、言いたいように」日常生活上の不安や不満を十分に受け止め、軽減できるよう配慮することを前提に、利用者の普段の関わりの中からより具体的な悩みや要望に気付けるよう援助します。また、ご利用前の生活状況の把握に努めることで、その人らしい生活に合わせた援助ができるよう配慮します。

■ 看護部

入居者が安心して暮らせる場を提供する上で、医療専門職として果たす役割は大きい。他職種との連携 協働を図り、その人らしい生活を支える看護支援を行う。

基本方針

1. その人らしい生活を送れるよう入居者とその家族に寄り添う看護
2. 心と身体を大切に、苦痛や不安を取り除く看護
3. 健康維持、悪化の予防 増進のため医療機関や社会資源の活用等他職種との協働をはかる看護

重点目標

1. 看護の視点から日々変化するニーズを把握するよう努める。
2. 知識を生かし、安心 安楽な看護を行うための技術を相互に高めるよう努める。
3. 医療機関や他職種との協働をすすめる上で、専門性の理解を深めるよう努める。

具体的取り組み

1. 担当制は継続。
ケアプランに基づいた看護計画をたて、連日の看護師ミーティングで日々の変化する状態を看護師間で共有していく。
2. テーマに沿った研修への参加 ネットの利用を利用するなど学習する。
月1回の看護師ミーティングを定着させ、カンファレンスの他、学習内容の発表も行う。
3. 他職種の専門性を理解すると共に、意見を尊重する態度を身につける。

■ 厨房

料理を提供する事の魅力と責任をもう一度初心に戻って考える。

栄養面の充実はもちろんの事、美味しい料理を提供し、お客様（利用者）に喜ばれる事が厨房業務の魅力の一つと考えられる。しかし、当施設のようなユニット型の施設の場合、厨房と食堂が離れている為、お客様（利用者）のダイレクトな反応、評価が厨房の職員には伝わりにくいようである。ユニット毎の会食行事を増やすなどして、厨房職員が積極的にユニットに顔を出し、お客様（利用者）のダイレクトな反応や評価を得る事により、日々の業務に反映させる。「美味しい」と言われれば「嬉しい、もっとがんばろう」、「不味い」と言われれば「もっと努力しなければ」という料理人の原点をもう一度見直すべきである。

一方で施設の集団給食である為、栄養面、衛生面にも十分に気を配らなければならない。最悪の場合、自分の作った料理でお客様（利用者）の命を危険にさらすような事がないとは言いきれない、そういった厨房職員の責任の部分も、もう一度初心に戻って考える。

重点目標

厨房職員には調理業務の魅力を確認してもらい、介護職員には料理の盛りつけの大切さを認識してもらおう。

具体的な実施事業

調理の最終段階を厨房職員がユニットで仕上げる日を儲け、厨房職員も一緒に食事することにより、お客様（利用者）の咀嚼、嚥下の状態を観察し、料理の感想も頂く。

給食委員会を通じて、介護職員に対する盛りつけの講習会などを実施する。

■ 委員会活動

◇ 研修委員会(スキルアップ)

内部、外部の研修を通じて、施設職員の介護・看護職としてのスキル(入浴・排泄・食事・認知症・口腔ケア・身体拘束、等)、技術の習得を目的とし、サービスの質の向上に繋げる。介護技術研修や勉強会を企画し実施する。

活動予定

- 4月 新人研修(法人理念、事業概要、接遇マナー等と介護職の基本的姿勢と技術)
- 5月 内部研修としてオムツに関する勉強会
- 6月 「食べる取り組み研究会」への参加
- 7月 内部、外部研修発表会
- 8月 「食べる取り組み研究会」への参加
- 9月 救急救命(AED)講習会
- 10月 外部研修(予定)
- 11月 「食べる取り組み研究会」への参加
- 12月 外部研修(予定)
- 1月 「食べる取り組み研究会」への参加
- 2月 内部、外部研修発表会
- 3月 30年度の研修内容のまとめ

◇ 給食委員会

利用者のニーズを把握し、その方にあった食形態で提供することで、安心・安全な食事を召し上がって頂き、日々の楽しみや生きがいに繋げてもらう。研修を開催することで介護職員の「食」に対する意識を高め、身体介護だけがケアではない事を理解してもらう事を目的とする。

活動内容

1. 研修会の実施

- (1) 給食委員会を通じて盛り付け、食器の選択など食事の視覚的方面から刺激を与えられるように厨房職員を講師に依頼し研修を行なう。
- (2) トロミ、食形態(ミキサー食、ソフト食、刻み食)における個人への適合性の評価及び、その種類(トロミ剤等の)での効果(メリット、デメリット)の勉強会。
- (3) 身体的機能面の勉強会。i 姿勢 ii 咀嚼 iii 嚥下

2. 厨房職員と連携してのイベント(喫茶や行事食等)開催。

◇ 感染症対策委員会(医療・衛生委員会)

医療・衛生に関する知識・技術を習得し、職員誰もが適切な対応ができることを目的とする(衛生管理、感染症、疾患について)

活動内容

1. 感染対策:感染予防に努める。
 - (1) 施設内研修会を開催し、知識、技術の向上に努める。
 - (2) 保健所と連携し施設に必要な情報・知識・技術の向上の為、出張外部研修(出前講座)を活用する。
 - (3) 外部・保健所主催の研修会等に参加し必要な知識・技術を習得し、施設へフィードバックする。
 - (4) 季節ごとに啓発ポスター貼り出し注意喚起する
2. 衛生管理:標準予防策の技術習得、手指消毒、手洗いの方法の徹底を図る。
 - (1) 施設内の衛生管理状況を定期監査し、問題点を検討し改善する。
 - (2) 清潔・不潔の区域をしっかりと分け衛生環境を整える。
3. 疾患:高齢者に多い疾患等について学習し、日常の生活管理に役立てる
 - (1) 嘱託医師、歯科医師、歯科衛生士等の協力を得て、疾患に関する知識技術を習得する。
 - (2) 定期的に疾病等の情報を発信する。

◇ 事故防止委員会

生活機能維持、事故防止の為の知識・技術を習得し、安全で安心な生活の保障を目的とする

活動内容

1. 毎月1日に事故防止委員会を主に事例検討会を開催し職員一人一人に問題意識を持ってもらい考えられる職員を育てていく。
2. 入居者・職員の健康状態の把握。
3. ADL、既往及び転倒リスクの把握。
4. 車いす等の定期的なメンテナンス。
5. ヒヤリハットや事故事例が発生した場合、速やかに報告を求め、情報の共有を行う。
6. 提出を受けた報告書から情報を分析し、事業所全体で問題の解決に取り組み、リスク回避に努める。

◇ 広報委員会

「施設とご家族、地域社会をつなぐパイプ役に」

施設内活動の情報発信を目的として、多種多様な活動を行っていく。施設情報誌「キングス新聞」の作成・発行をする

施設で行われる行事やボランティアの方々の催し物の際は、入居者・利用者をはじめ、参加されている方々への写真撮影や取材を行い、年3回発刊(7月・11月・3月)の情報誌の作成、掲示・配布・郵送を行う。発行に伴い、随時会議等を実施する。

7 三日町デイサービスセンター

基本方針

利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち適切な指定通所介護事業及び総合事業を実施し、心身機能の維持向上や社会的孤立を予防し、住み慣れた地域で馴染みの人と関わりを持ちながら、生き生きと自宅での生活を続けることができるよう支援していきます。

重点目標

1. 利用者の身体機能・認知機能を細分化して聞き取り、必要な支援や要望を明確にし、それぞれの利用者に合わせたサービスを提供していく。
2. 身体機能や認知機能を維持改善して在宅での生活を継続し、サービスを長く利用して頂けるようサービスを提供していく。

具体的な実施事業

1. 機能訓練検討会、食事に関する検討会、口腔ケア検討会の実施
 - (1) 利用者それぞれに合わせたサービスの提供を行うため、定期的に各項目に関する検討会を実施。評価や経過の確認を行い本人、家族の希望や本人の機能や要望に合わせた食事を提供する
 - (2) 評価と改善について検討し、積極的に家族やケアマネ、主治医に連絡を行い改善に向けた働きかけを行う。
2. 余暇活動、レクリエーションや行事の充実
趣味や特技を生かし、目標や身体状態に合わせてグループで楽しみながら過ごしてもらえるよう個別の活動を増やし提供していく。
3. 職員の資質向上と業務の見直し改善に努める
適切な業務の実施にあたり全職員に「介護保険制度の理解」や「求められている業務の理解」が必要であることから、内部研修や会議の内容を充実させる。

(キングス・タウンデイサービスセンターの事業休止により、その事業を吸収していく)

8 キングス・タウン ヘルパーステーション

基本方針

住み慣れた地域、家で安心して生活できるように支援する。

利用者の身体に応じて、可能な限り自立した生活を送ることが出来るように支援します。

心のこもった対応、言葉遣いで利用者、家族に寄り添った支援を目指す

重点目標と具体的な取り組み

1. 自立した日常生活の支援

(1) 平成30年度は介護報酬改定に伴い、当事業所は生活援助の利用者が多いので計画書を見直しし、利用者がヘルパーと一緒に活動できるようにし、自立支援に資するサービスを提供する。

(2) 利用者が可能な限り在宅生活において、個々の能力に応じ自立した生活を送り営む事ができるように自立支援と重度化予防の視点を持った支援を行う。

2. 利用者との信頼関係の確保

利用者に安心していただけるサービスの提供を心掛ける。

3. 関係機関との連携と職員連絡体制の強化

(1) 利用者へのより良いサービスを提供に繋げるために、支援事業者等との情報交換、情報共有に努める。

(2) 利用者の身体状況の変化や訪問時の報告等、連絡が密にとれる環境作りを心掛け、スムーズに業務が行えるよう努める。

4. 職員の質の向上

利用者へのよりよいケアのため及び業務の円滑にするためのケースカンファレンス、ヘルパー会議を開催する。

5. 事故防止

(1) サービス提供にあたっては利用者の健康状態及び身体状況等をヘルパーが把握できるように報告、連絡、相談の徹底を図り事故防止に努める。

(2) 事故報告、インシデントを活用し再発防止、未然防止に努める。

研修計画

4月	接遇・職業倫理	11月	高齢者の心と身体
5月	食中毒	12月	事故防止
6月	緊急時対応	1月	感染症予防
7月	法令遵守	2月	調理
8月	苦情	3月	プライバシー
9月	認知症		
10月	口腔ケア		

毎月 ミーティング、ケース会議 個別研修、介護技術研修

9 南三陸訪問看護ステーション

基本方針

病気や障がいがあっても住み慣れた地域・家で安心して暮らしていけるよう支援していくと共に、それに関わるスタッフの資質向上と統一したケアが提供出来るよう努力していきます

重点目標

1. 医療保険・介護保険に応じて小児から高齢者まで予防看護から看取りまで、様々な医療ニーズのある方へ訪問看護を提供します
2. 質の高い訪問看護サービスが提供できるよう、看護職員一人ひとりが研鑽し地域に根差したステーションとして利用者並びに地域から信頼されるよう努力します
3. 地域包括ケアシステム構築に向けて、地域の中で役割を果たせるよう多職種、多機関との協働に対する取り組みを継続的に行います

具体的な実施事業

1. 緊急時は24時間、365日対応します
2. 統一した看護サービスが提供できるよう、所内での検討会を行います
3. 一人ひとりが自分の目標を持ち、計画的に研修に参加し専門職としての質の向上に努めます。また研修してきたことを伝達しスタッフ間での共有に努めます
4. グループホームの入居者の状態変化に伴い、医師より特別指示書が出た場合はグループホームのスタッフとの連携を強化し訪問の体制を整えます
5. 法人全体の看護職員間で共通した利用者さんの情報交換・提供を行い安心してサービスを利用していただけよう連携を強化していきます
6. 訪問看護計画書・報告書・サマリー等の提出を徹底します
7. 医師会高看・市立看護専門学校・東北福祉看護学校等の実習生の受け入れも引き続き行い新人育成に努めます

10 階上ランチ デイサービスセンター

基本方針

階上ランチデイサービスセンターは小規模のデイサービスで、事業所2階にはショートステイがあります。小規模なので顔が見えやすく、家庭的な雰囲気が特徴です。その特徴を生かしながら、気軽に集まれる地域の拠点として市内の皆様を選んでいただける事業を目指します。

重点目標

1. 時間にとらわれない臨機応変な支援。
2. 利用を楽しみに待っていただける支援内容の構築。
3. 同一建物・敷地内の事業所との連携強化。

具体的な実施事業

1. 時間になったからこれをするという考えを改善し、その時の利用者の状況や気持ちをくみ取りながら支援内容も臨機応変に合わせて行います。一つの内容にこだわらず、複数の支援内容を準備することで、利用者に選んでいただきながらその時の最善の方法で支援できる体制を作ります。
2. ほとんどの利用者の方が1週間に2回程度の利用となっております。家庭的な雰囲気の中、家庭とは違った娯楽的な支援も必要です。季節ごとの外出や外食、選べる食事のメニューなど、職員も一緒に楽しみながら支援できるよう、業務内容の見直しも行います。利用日になったから利用するのではなく、ご利用自体を待っていただけるよう、利用者一人ひとりのニーズに合わせた支援を行います。
3. 事業所2階にはショートステイ、敷地内にはグループホームがあります。限られた職員で、職員一人ひとりの能力が十分に発揮できるよう、常日頃から連携を行い業務に当たります。また非常災害時や緊急時では、事業所の垣根を越えて対応し利用者が安全・安心して過ごせる事業所を作ります。

11 階上ランチ(高齢者グループホーム)

基本方針

利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立った適切な支援を行なう。

重点目標

1. 利用者個々の能力を再確認し能力が発揮できるように支援する。
2. 馴染みの地域での暮らしが継続できるようにする。
3. 職員個々のスキルアップ・人材育成を行う。
4. ケアプランを全職員に周知する。
5. 安定した運営を維持する。

課題達成のため具体的な取り組み

1. 利用者個々の暮らしの様子や思いなど継続的に情報収集し、その中から生活上の課題を把握し、不安の原因など解決できるように努める。
 - (1) 毎朝の引き継ぎ時にケアポイントとして取り組みを行なう。
 - (2) 毎月のミーティングで次月の取り組み目標を作成する。
 - (3) 運営推進会議を活用し地域資源を把握する。本年も地域・家族と協力し行事を行なう予定。(去年は芋煮会を実施)。
2. 研修計画を作成し定期的な勉強会を実施する。
 - (1) 認知症、身体拘束、高齢者虐待、感染症など
 - (2) 職員の能力を見極め必要な研修会への参加を促す。
3. ケアプランを作成し毎月行うカンファレンスでケアの統一を図る。
 - (1) 実践したケアはケース記録に残しモニタリングできるようにする。
4. 安定した稼働率確保 年間数値目標 98%以上(前年93%)
 - (1) 利用者の健康管理を行い、常に利用者の身体状況を把握する。
 - (2) 医療連携を活用し情報共有しアドバイスをいただく。
 - (3) 待機者への継続的なアプローチ(入居状況やADLの確認)
 - (4) 入院した方へ定期的な面会を行ない、退院後GHでの生活が継続できるのか早い段階で見極めを行う。

12 階上ランチショートステイ(基準該当)

基本方針

今年度で2年目となりました利用定員7名の基準該当ショートステイです。昨年と比べて順調に利用は増加しておりますが、比例して体調不良などによるキャンセルも増えているのが現状です。

来年度は、キャンセルとなった場合の利用者の確保を積極的に行い、更なる利用者の安定確保を目指します。また、急な利用に対しても柔軟に対応し利用者・ご家族から、使い勝手の良い事業所とっていただけるよう来年度も努力していきます。

重点目標

1. キャンセルとなった場合の利用者の確保を積極的に行います。
2. 急な利用に対して新規のご利用であっても柔軟に対応いたします。
3. 小規模事業所の利点を生かし、家庭的で暖かい事業所を目指します。
4. 各事業所との連携を強化し非常時の際の安全を確保します。

具体的な実施事業

1. 体調不良等などにより当日のキャンセルであっても、ケアマネジャーや待機の利用者へ連絡し、利用に繋がります。また現在までの利用状況から推測し、キャンセル待ちとなっていない利用者に対しても積極的に声掛けを行い、空室の減少に努めます。
2. 新規の利用に対しては一定数の手続きが必要となり、たとえ空室があってもご希望=即利用とならないのが現状です。ケアプランなど必要書類の早めの受領や利用者調査の重点項目を見直し、それに伴う調査の時短化により、緊急の依頼であっても可能な限り受け入れを進めていきます。
3. 施設の概念を取り去り、家庭的な雰囲気を利用できるように努めます。その日の天候に合わせて外出したり、その時の気分で食事のメニューを選んだり、職員も利用者と一緒に楽しみながら日々の生活が支援できるよう、支援内容も見直しながら業務にあたります。
4. 同一建物内にデイサービス、同一敷地内にグループホームがありますので、常日頃より連携や疎通をしっかりと行い、職員一人ひとりの能力を十分に発揮しながら万が一の非常時の際でも利用者が安全・安心して過ごせる環境を作ります。

13 星谷ランチ(高齢者グループホーム)

～心身健やかに 日々笑顔で～

重点目標

1. 利用者の健康増進と体調管理、事故防止の徹底
高齢者は一度体調を崩すことや転んでケガを負い、歩行する機会が減少すると状態が低下し、生命を脅かす事態に陥りやすいので、体調変化への気づきや事故防止への意識を高めていく。
2. 地域の一員として生活できる支援
地域において自然な形で生活していけるよう、近隣の方とふれあう機会をより一層多く設ける。
3. 外出行事の充実化
施設敷地内で行う行事以外にも車で外出して行うものを増やし、利用者を楽しみと新鮮さを味わってもらえるよう外食する機会も増やしていく。
4. 医療機関との連携強化。
近年、医療機関への入院や特養入所を望まない家族が多く、施設で看取るケースが増えている為、主治医、訪問看護ステーションと連携体制を強化していく。
5. 稼働率の向上。
空室の期間を極力短くする為に、次期入所者を早い段階で複数名絞りこみ早期に入所できるように準備を進める。

具体的な実施事業

1. 利用者の担当制。
各職員が1～2名の利用者を担当し、個別援助計画書に基づいたケア実践後の結果を評価、分析し、日々の申し送り時、月1回の会議時に問題提起してケアの方向性を提案し、利用者が本人らしく生活できるよう創意工夫していく意識を高める。
2. 地域との結びつきを深める。
年に何回かは地域の行事に参加しているが、今年度は地区行事参加以外に施設の行事にも地域の方を招いて交流を深める。運営推進会議も更に多くの方に参加してもらえよう地域の方や家族様に呼びかけて行く。
3. 医療機関との連携構図整備。
利用者が急変した時に必要な医療機関、関係者への連絡構図を整え、職員全員が対応できるようにする。入院時は医療機関に早急に情報提供を行い、早期に退院できるよう関係者との話し合いをこまめに行う。看取り利用者に対しては本人の尊厳を第一に最期まで自分らしい生活を送る事ができるよう主治医、訪問看護ステーションに相談し、適切な対応をとる。
4. 稼働率の向上。

空室期間を短くする為に満床であっても次期入所者を絞り込み、早めに担当ケアマネ等から情報収集を行う。看取り、転居等で居室が空きそうになった時点で次期入所者と入所の話し合いを進めて行く。長期入院の原因の一つになる転倒による骨折は絶対に防ぐ。

5. 職員の業務取り組みへの意識改革を行う。

外部、内部研修へ積極的に参加し、研修で学び得たものをミーティングの時に他の職員へフィードバックするなどして自己研鑽に努める。感染症予防の為に勉強会を実施し利用者の体調管理はもちろん、職員個人も健康に留意し、万全の体調で業務に取り組めるよう努力していく。

14 キングス・ガーデン ヘルパーステーション

基本方針

在宅サービスの基本、『住み慣れたところで過ごしたい』を実現できるよう、事業所としての役割をふまえつつ、風通しの良いサービス提供を行える運営を心がける。

重点目標（具体的取り組み）

1. 制度改革への対応。

- (1) 平成30年度は介護保険制度が単価だけではなく、考え方も大きく変化する。サービス提供にあたり、書類、提供者等もより明確に打ち出され、今後、管理者、サービス提供責任者の業務負担が大きくなってくると思われる。通常の訪問業務をこなしながらではあるが、お客様へ不便の無いよう、ヘルパー自身がよく理解し応えていけるよう業務を整えていきたい。
- (2) 新たなサービス窓口として介護保険事業者外の参入もできるようになる総合支援事業、生活援助部分ではあるが、気仙沼市は保険外事業者でさえも間口が狭く、どの介護保険事業者も積極的な受け入れには至らないであろうと考えられるが、できるだけ受け入れし、サービスの流れをスムーズにしていきたい。

2. お客様への対応

- (1) サービス依頼を受けるケアマネジャーへは受け身ではなく、積極的な報告・相談を行い、電話・文書のみ把握ではなく、お客様の状況を現場で直接確認してもらえよう働きかけていき、在宅介護を良いものにしていきたい。
- (2) お客様だけではなく介護者のフォローも課題となっており、普段気づかない事をサービス担当者会議等へ積極的に参加し確認していくことで良いチームケアにしていきたい。

3. 提供職員の確保

- (1) 前年度に引き続き、タウンヘルパーと連携し受け入れ間口を広く、流動的、効果的に実施したい。
- (2) 緊急時にはレスキューを頼めるよう、控え職員の育成もできれば法人職員としてのスキルも上がるとみている。

年間研修計画

4月	職業倫理・接遇研修	11月	感染症研修
5月	法令遵守、プライバシー研修	12月	介護技術研修
6月	口腔ケア研修	1月	苦情、事故処理研修
7月	食中毒研修	2月	介護技術研修
8月	緊急時防災研修	3月	事業への自己評価
9月	認知症研修		
10月	調理研修(合同)		毎月、ミーティング・ケース会議

15 幸町ランチ(就労継続支援B型事業)

基本方針

「通所できる喜び、意欲が湧く事業所、安心と希望の持てる生活への支援づくり。」
障害の有無に関わらず、共に住み慣れた地域で暮らすことができる共生社会を実現できる事業づくりを行います。

日中活動の場として、就労の機会や生産活動の機会を提供し、社会復帰や社会参加を目指していくための支援を行います。

重点目標

1. 障害者総合支援法の改正に沿って、29年度に行われた県の実地指導での指摘事項を整備していく。
2. 県が示す月工賃額平均23,000円を目標に、工賃・利用率アップを目指す。
3. 個々の障害や生活の見直しのためにも、モニタリング・個別支援計画を重視する。
4. 職員の質の向上の為にも定期的な会議の開催・内部・外部研修にも出席する。

具体的な実施事業

1. 報酬改正もあるため、改正内容を熟知し請求にミスが生じないように行う。
2. 実地指導での改善点を見直し、また、確認を行い記録の整備や設備の確認を行う。
3. 現在は、受託作業中心に作業提供を行っているので、受託先との信愛関係を大切にし、切れ目ない作業を目指して作業提供できるようにする。作業進捗状況を確認していく。工賃アップは利用者の喜びであり、通所意欲向上へつながるので、作業依頼は断らずに受け入れていく。
4. 様々な障害の方たちが利用する中で、安心して利用できる事業所として、個々の状況を把握し、利用者間の関係性もうまく保てるようにするためにも支援・相談を重視していく。
5. 定期的に会議を行い、日々の支援での困りごと等相談し情報共有していく。
6. 研修会にも参加し、意欲を高めることができるようにする。

16 キングス・ビレッジ総合相談室 (障がい者相談支援)

基本方針

平成30年度より気仙沼市第5期福祉計画のもと障害サービス等実施されます。そして、国からの方針で障害サービス等の大規模な報酬改定が行われ始動します。計画相談事業も資質の向上を求められています。

その中で、相談支援者としての基本姿勢を忘れず、障害者の立場に立った、寄り添った支援を心がけて相談業務にあたる。

1. 一般相談の実施
2. 計画相談の実施
3. 相談員の資質向上
4. 地域課題の取り組み

具体的な実施事業

1. 相談内容を確認し、情報提供や関係機関と協力する。
2. 利用者の希望する生活を把握し、課題を整理する。モニタリング対象者は、しっかりと振り返り、その後にかきたい。
3. 関係機関各所で行われる研修の参加。
4. 新規事業の把握、地域の実態の把握に努める。利用者のニーズより地域課題を整理する。